

大阪府箕面市
令和7年2月10日

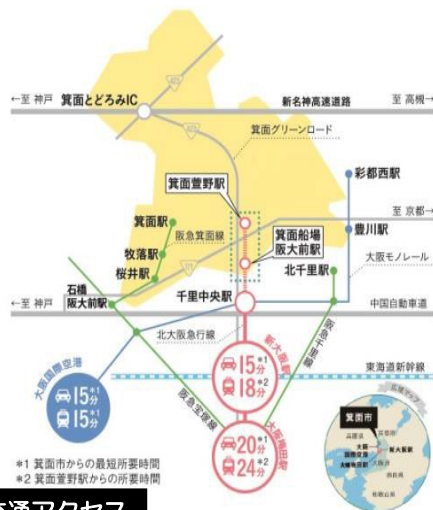
幼保小の架け橋プログラム事業 成果報告会資料

箕面市教育委員会
子ども未来創造局 保育・幼児教育センター



1. 箕面市の概要

人口 138,845人
男性 66,388人
女性 72,457人
世帯数 63,377世帯
(令和6年4月現在)
面積 47.9km²



箕面大滝

- ◆大阪府の北部に位置し、10km圏内に空港、鉄道や高速道路があり、交通の利便性が高いまちです。また明治の森箕面国定公園や箕面大滝は、自然観察や文化財探訪、ハイキングなど、四季を通して訪れる人が多い観光スポットです。
- ◆箕面市北部の止々呂美地区で栽培される実生ゆず、びわ、栗、山椒などが特産品として知られています。

2. 箕面市・箕面市教育委員会の機構（機構図）

箕面市では、平成17年、平成28年、平成30年の3度にわたり、組織を改編しました。

そのねらいは、市長部局と教育委員会に分かれていた子ども関連の施策を教育委員会に一元化することです。

（幼稚園・小中学校が教育委員会固有の事務のため、一元化が可能なのは教育委員会のみ）

平成17年4月

保育所・子育て支援センター、児童手当業務を市長部局から教育委員会に移管。

平成28年4月

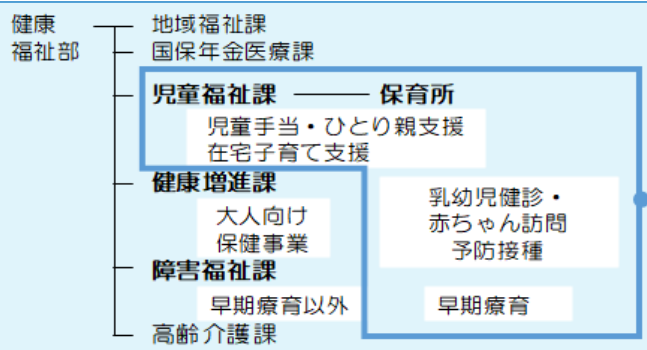
母子保健事業を市長部局から移管。

平成30年4月

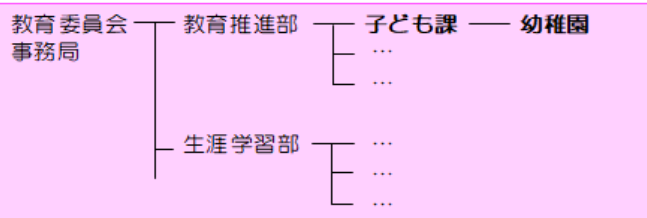
児童虐待に特化した組織「児童相談支援センター」を創設。教育委員会の子育て担当部門に位置づけ。

平成16年度（改編前）

市長部局

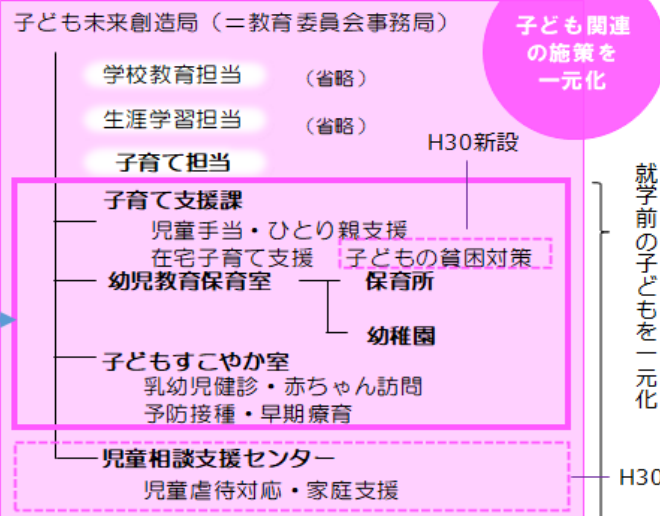


教育委員会



平成30年度

教育委員会



一元化に伴い、業務を行う行政職、保健師、保育士、専門職を教育委員会事務局に異動

※文中における「子供」の表記は、箕面市において「子ども」に統一しているため、以降全て「子ども」と記載しています。

3. 箕面市の考え方（教育と福祉の融合）

- ◆ 箕面市では平成17年度に、これまで市長部局と教育委員会に分かれていた**子ども施策を「子ども」をキーワードに関係部門を教育委員会に一元化**し、おおむね0歳から18歳までの子どもに対する施策（子育て支援含む）を総合的に展開しています。
- ◆ 「幼稚園」「保育所」「認定こども園」「子育て支援センター」等における**就学前の子どもの育ちや家庭支援と、青少年の多様な活動を支援**するため、家庭、地域、園所、小中学校とともに施策や早期療育についての推進体制を充実させてきました。



これまで、箕面市が実施してきた「教育と福祉の融合」における関連施策により、公立における保育所・幼稚園は、ともに保育・幼児教育を考え、進めてきました。

一方で、**環境の変化に伴い、市内就学前保育・教育施設の私立・民間の園の割合は著しく増加しました。公立だけで保育や幼児教育を考え・実践するだけでは、本市で育つすべての子どもたちの可能性を引き出し、未来を担うかけがえのない子どもたちや集団の多様な幸せ（ウェルビーイング）を保障することができません。**

令和4年10月に開設した保育・幼児教育センターでは、このような乳幼児期の保育・幼児教育について、公立・私立や、施設種別の垣根を越えて、市内全ての就学前保育・教育施設をつなぎ、ともに高め合うためのコーディネートを担い、研修会や巡回訪問、小学校教育との接続など、保育・幼児教育全体の質の向上をめざした取組を進めています。架け橋プログラムについても、施設種別や運営種別を越えて実現するため、保育・幼児教育センターが主となり、事業を進めています。

4. 架け橋期カリキュラム作成に向けた体制づくり（3年計画）

■ 令和4年度から行ってきた取組の流れは以下の通りです。

1年目（令和4年度） 土台づくり

まずは「語り合い」

「架け橋期における接続の意義」に関する学習会（学識経験者による研修）や、施設見学等を通じて、関係者間の顔合わせ、各施設における取組や子どもたちの実態共有、意見交換などの土台づくりを中心に実施。

2年目（令和5年度） カリキュラム（素案）の作成

カリキュラム（素案）の作成・実践・検証

- ・ 1年目の取組を継続しながら、幼児期に育まれる資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校の各教科等にどのように接続していくのか、検討会議で意見聴取。
- ・ 検討会議での意見を踏まえ「架け橋期カリキュラム（素案）」を作成し、本市のモデル地域である萱野地域（萱野小学校、かやの幼稚園、萱野保育所）で実践・評価。

※令和6年度からかやの幼稚園と萱野保育所はかやのこども園に移行

3年目（令和6年度） カリキュラムの完成

地域の実情に合わせたカリキュラムへ

- ・ 1・2年目の取組を継続しながら、モデル地域での実践を引き続き行い、評価を反映させた「架け橋期カリキュラム」の完成。
- ・ 完成した「架け橋期カリキュラム」を各就学前保育・教育施設及び小学校へ周知するとともに、市内他地域への持続可能な展開へとつなぐ。

◆ 調査研究事業が終了したあとも、全市域で架け橋期カリキュラムの実践を継続できるようにするための手法等の検討を進めています。

5. 架け橋期カリキュラム作成プロセス①（モデル地域の設定）

■モデル地域の設定

本市が受託している文部科学省の調査研究事業において、地理的に本市の中央に位置する萱野小学校区（萱野小学校、かやのこども園）をモデル地域に設定しました。

箕面市全域



箕面市役所

モデル地域（拡大）



5. 架け橋期カリキュラム作成プロセス②（施設の特徴）

箕面市立かやのこども園（幼児部）は、萱野小学校と同敷地内で隣接していることが大きな特徴です。
ご覧の通り、園庭と運動場の境に塀なども設置していません。



5. 架け橋期カリキュラム作成プロセス③（会議体の設定）

「架け橋期カリキュラム」を社会に開かれた教育課程にするため、様々な立場の方で構成される「架け橋期カリキュラム開発検討会議」を設置しました。

また、同会議に参加している校園所の職員で構成された「ワーキンググループ」において開発検討会議の意見を基に、施設見学や意見交換などを行うことで互いの教育活動やその工夫を知り、幼児期と児童期のつながりを考え、カリキュラムの作成に繋がりました。



【架け橋期カリキュラム開発検討会議】

- ・方針の決定
- ・様々な立場の方からの意見交流

メンバー

子ども未来創造局担当部長、学識経験者、
萱野小学校長、かやのこども園長、
私立認定こども園長、私立保育園園長、
架け橋期保護者



【ワーキンググループ】

- ・施設種別の垣根を越えた職員同士の関係づくり
- ・それぞれが行っている教育活動の中身について語り合い、相互理解を促進
- ・開発検討会議で決定した方針等を基に、カリキュラムの開発
- ・開発したカリキュラム等の実践・検証

メンバー

公立・私立の保育に関わる
方、小学校教職員
※開発検討会議メンバーの
所属から参加

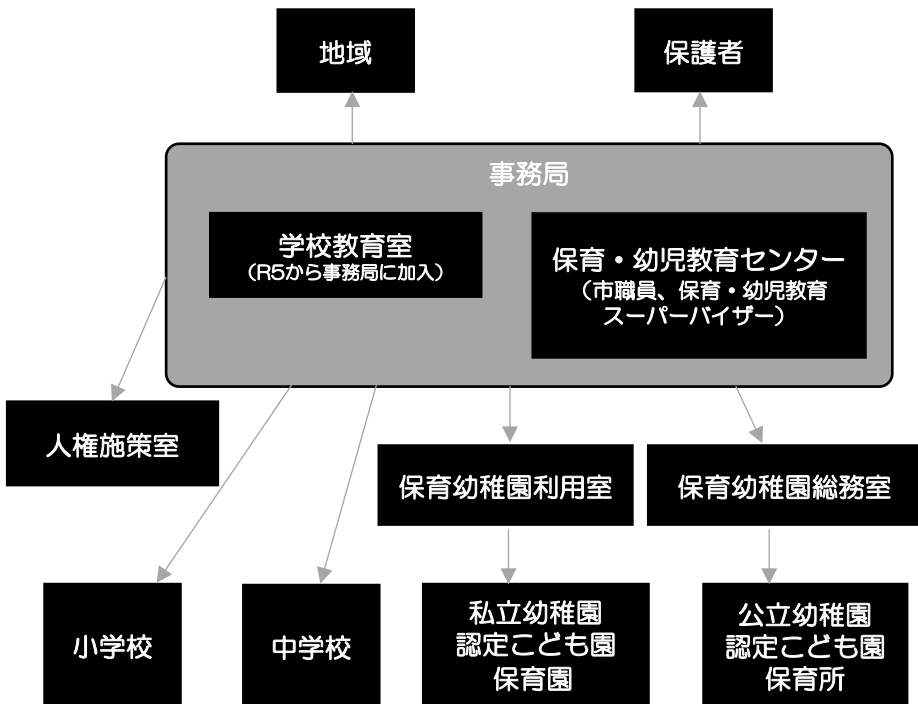
5. 架け橋期カリキュラム作成プロセス④（体制図）

■体制（架け橋期カリキュラム開発検討会議）

役割	所属等
会長	子ども未来創造局 担当部長 （箕面市教育委員会）
委員	箕面市立萱野小学校 校長（※）
委員	箕面市立かやのこども園 園長（※）
委員	箕面保育園 園長（※） （民間保育園連盟より推薦）
委員	こども園 アサンプション国際幼稚園 園長（※） （私立幼稚園連盟より推薦）
委員	架け橋期代表保護者 3名
コーディネーター	大阪総合保育大学 児童保育学部 教授（包括連携協定締結大学） 【役割】 ・架け橋期カリキュラム開発検討会議の他 会議、ワーキンググループへの出席 ・ご助言 ・ご講演（合同研修会） など

（※）の所属から、ワーキンググループに所属する職員を派遣していただきました。

■箕面市教育委員会事務局



5. 架け橋期カリキュラム作成プロセス⑤（WGの語り合い）



箕面市PRキャラクター
滝ノ道ゆずる

「子どもの姿」を共有する

◆見学（互いの状況を知る）

- ・ 授業（遊び）の進め方
- ・ 時間の流れ
- ・ 先生の話し方や工夫
- ・ クラス内の掲示物
- ・ 教科書・教材
- ・ 子どもの雰囲気
- ・ 学習に向かう姿勢
- ・ 子ども同士の交流
- ・ 幼児教育と小学校教育のつながり

◆語り合いの場の設定 （互いの思いや工夫を知る）

- ① 共通点
- ② 違い
- ③ 互いの工夫
- ④ 幼児教育と小学校教育のつながり

5. 架け橋期カリキュラム作成プロセス⑥（施設見学）



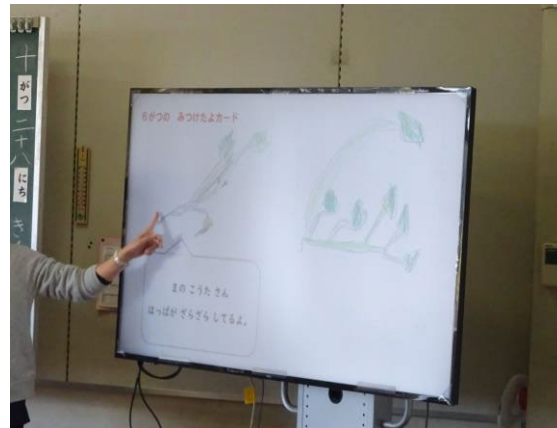
箕面市PRキャラクター
滝ノ道ゆずる

■見学(互いの状況を知る)

【就学前の環境、遊び】



【1年生の環境、授業のすすめ方】



知っているようで知らなかったことや実際に見ることによる気づき

- ・時間の使い方
- ・発達の時期に合わせた工夫
- ・現在の幼児教育、学校教育（教材や教科書等の変化）など

5. 架け橋期カリキュラム作成プロセス⑦（語り合い）

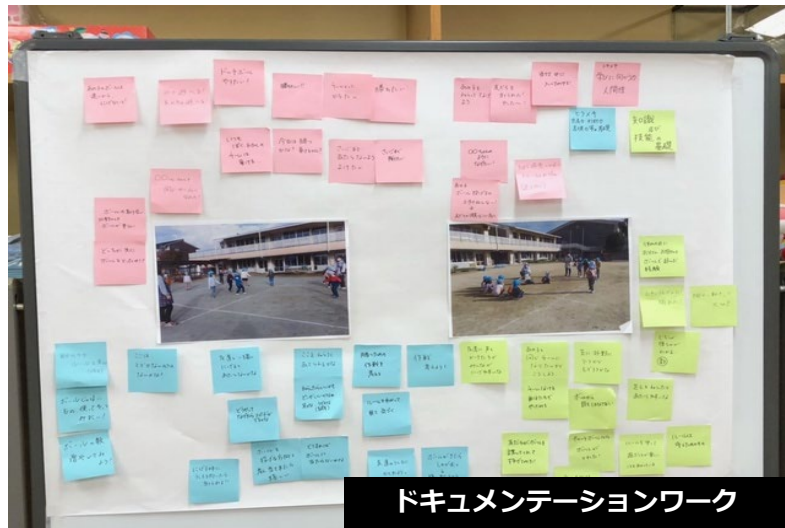


箕面市PRキャラクター
滝ノ道ゆずる

■ワーキンググループの語り合い手法 ～ドキュメンテーションワーク～

立場が異なる職員が対話するうえでの…

【共通の手掛かり】 … 子どもの姿



【共通の視点】

育みたい資質・能力

幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿

各教科等とのつながり



相互理解

何をどのように学んでいるかを「可視化」

5. 架け橋期カリキュラム作成プロセス⑧（ワーク事例）

【ワーキンググループにおけるドキュメンテーションの活用】

ドキュメンテーションワーク事例

【就学前の事例】

ドッジボール
積み木遊び
じゃんけん列車 など

【小学校の事例】

ひらがな学習
芋ほり など



ドキュメンテーションワークの様子

◆ドキュメンテーションワークの効果

相互理解

- ・それぞれの教育の実態（共通点と違い）
- ・発達段階にあわせたそれぞれの工夫など

気づき

- ・誕生からの育ちの連続性
- ・遊びの中にある学びの芽生え
- ・「学びに向かう力」の育ち
- ・遊びと教科学習とのつながり など

地域の実情を考慮した 持続可能なカリキュラム

ワーキンググループで実践・検証して作成したカリキュラムに、校区ごとに「地域での取組」「子どもの交流」「教職員の交流」を追記しました。

実施の概要		*子どもとは…	
実施の概要	実施の概要	※スタート～子どもたちがよりよく育てたかを振り返る～	
		※1年生 4月	※1年生 5月～9月
実施の概要	実施の概要	※1年生 10月～3月	
		※2年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※2年生 5月～9月	
		※2年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※3年生 4月	
		※3年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※3年生 10月～3月	
		※4年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※4年生 5月～9月	
		※4年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※5年生 4月	
		※5年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※5年生 10月～3月	
		※6年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※6年生 5月～9月	
		※6年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※7年生 4月	
		※7年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※7年生 10月～3月	
		※8年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※8年生 5月～9月	
		※8年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※9年生 4月	
		※9年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※9年生 10月～3月	
		※10年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※10年生 5月～9月	
		※10年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※11年生 4月	
		※11年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※11年生 10月～3月	
		※12年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※12年生 5月～9月	
		※12年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※13年生 4月	
		※13年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※13年生 10月～3月	
		※14年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※14年生 5月～9月	
		※14年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※15年生 4月	
		※15年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※15年生 10月～3月	
		※16年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※16年生 5月～9月	
		※16年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※17年生 4月	
		※17年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※17年生 10月～3月	
		※18年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※18年生 5月～9月	
		※18年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※19年生 4月	
		※19年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要	※19年生 10月～3月	
		※20年生 4月	
実施の概要	実施の概要	※20年生 5月～9月	
		※20年生 10月～3月	
実施の概要	実施の概要	※21年生 4月	
		※21年生 5月～9月	
実施の概要	実施の概要		

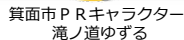
6. 架け橋期カリキュラムの構成①（共通の視点の設定）

【カリキュラム作成にあたっての視点】

	アプローチ期（5歳児）	スタート期（1年生）
①期待する子ども像	生活の場が広がり・他者との関係の広がり・興味の広がり・依存から自立へ等 こうした発達を踏まえた期待する子ども像	
②遊びや学びのプロセス	諸感覚を通した体験を重ねる 過去の体験のつながり 遊びの中での気づき	自覚的な学び プロセスを踏まえた内容・配慮
③園で展開される活動 /小学校の生活課を中心とした各教科等の単元構成等	遊びを通した総合的な学び 具体的活動や教科等の単元等	生活科を中心に総合的・関連的な指導
④先生の関わり	幼児と先生との関係を中心としながら 他の幼児との関係の広がりへ 自己の世界が広がり、物との関わり方、状況判断、他の幼児との関係が できている中で保育者の役割	関わりが多様化へ 丁寧な関わりを通して、自覚的な学びへ 安心を生み、成長・自立を支える 気づきを基に考えることを促す 気づきの質の高まりを促す
⑤環境の構成 環境づくり	○安心して遊びに没頭できる環境づくり ○自分の思いの実現や他者とともに作る世界 を楽しむ遊びの発展に配慮 幼児が自発的に環境に関わりたくなる 状況をつくる	○自分の力で学校生活を送り自覚的な学び を生み出すような環境に配慮 安心して活動できる環境や 主体的に学びに向かえる環境をつくる
⑥家庭や地域との連携	ともに子どもを育むパートナーとしての連携づくり	
地域での取り組み		
子どもの交流	各地域・校区において持続可能な取り組み	
教職員の交流		

- ◆ 従来から小学校就学前保育・教育施設、小学校はそれぞれに「小学校への就学」という変化にスムーズに対応できるよう、さまざまな工夫等を行い、それぞれのカリキュラム等に記載してきました。
- ◆ これまで別々に行ってきた配慮や工夫を互いに知り、改めて共通の視点で整理し、互いの状況を並べて見えるようにするところから始めました。
- ◆ 共通の視点を定める際には、文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」をベースに、手探りのカリキュラム開発が始まりました。

*上記の視点を踏まえ、具体的内容をカリキュラムに記載しています。



6. 架け橋期カリキュラムの構成③（校区の特色を見える化）



箕面市PRキャラクター
滝ノ道ゆする

モデル地区で開発したカリキュラムをもとに、校区ごとに自校区の特色を見える化しました。

先生の関わり	○自分なりの目的をもって取り組むことや、遊びの中で、それぞれが思いやりをもちながら進めたり、解決していけるようたりする。 ○子どもが工夫をつくり、かいたりする姿や豊かな発想を認め、共感していく。 ○好きなことに集中したり、没頭できる時間を保障しつつ集団で活動したり、話を聞く場面を取り入れたりしていく。 ○就学への不安に寄り添いながら、一人ひとりの育ちや頑張りを認め、励まし、自信をもって就学を迎えられるようにする。 ○一人ひとりが大切にされるよう、人に話す経験や個性について話し合ったりして、入	○「ほぐす」「ひらく」などの言葉や学習のあらゆる場面で、教師が子どもと子どもをつないでいく。 ○入学当初は、不安を感じがちなので、笑顔で応え、声を掛けるなど、子どもとの信頼関係を築くことを心がける。 ○必要に応じて、簡単な手遊びやゲーム等を取り入
指導上の配慮事項	【拡大】 家庭や地域との連携 ○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをととした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ○個人懇談等で、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。	が笑顔にむけて試みる。また、友達を通して、やり遂げ もち、不思議に用具を準備する。を意図して活動で とりや言葉豊かな文字スタンプ、鉛筆、共有や共感が 式の準備や記念を込めて取り組み こりする機会をも
子ども達の調子	家庭や地域との連携 ○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをととした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ○個人懇談等で、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。	一人ひとりの育ちをのようにつなげるように引き継ぎ うな場を用意す の思いを受け止めに行い、安心して
地域での取り組み	子ども達の調子 家庭や地域との連携 ○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをととした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ○個人懇談等で、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。	子ども達の調子 家庭や地域との連携 ○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをととした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ○個人懇談等で、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。
子どもの交流	家庭や地域との連携 ○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをととした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ○個人懇談等で、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。	子ども達の調子 家庭や地域との連携 ○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをととした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ○個人懇談等で、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。
教職員の交流	家庭や地域との連携 ○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをととした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ○個人懇談等で、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。	子ども達の調子 家庭や地域との連携 ○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ○友だち関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子等をクラスだより等で伝える。 ○遊びをととした子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ○個人懇談等で、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。

校区によって、地域リソース（地域のイベントの有無や、小学校就学前保育・教育施設数の多寡や園の規模など）が異なるため、「地域での取組」や「子どもの交流」、「教職員の交流」の部分は、校区ごとに追記します。

校内で新たに取り組む内容がないかななどを定期的に検討するため、学校の教育指導計画にも挿入することとしました。

そうすることで、毎年自らの教育活動を、架け橋の視点を意識して見直せるようにしました。



7. 教師の指導・援助及び子どもの学びの変化

指導・援助の変化（保育所・幼稚園・認定こども園）

- ◆ 架け橋の交流で、小学校の先生に「入学後につながっている」と言われることで、自身の保育や教育活動に根拠や自信がもてるようになった。
- ◆ 子どもたちが自分で意見を言えるような声かけを心がけている。「何がしたい？」「どうする？」自分ができるところをのばす、子どもの力を育てる意識で行っている。
- ◆ 子どもたちが意見を言うためには、心の安定が必要で、安心づくりを心がけるようになった。

指導・援助の変化（小学校）

- ◆ 「やったことがないからできない」と思っていた。「やったことあるからできない（入学前があり、就学前にやっていたやりかたと違うからできない（しない））」ことがあるのだとわかった。
- ◆ 以前は、「知らないから教えてあげないと…」という意識で「こうするんだよ。」と声かけしていた。声かけに疑問形が増えた。「知ってる？」「やったことある？」「どうやってやるのがいいと思う？」など、子どもたちに問いかける機会が増えた。
- ◆ 子どもたちができないと思っていたことが実際にはできるなど、見通しができたことで教材開発やカリキュラムを模索する幅が広がった。

子どもの学びの変化

- ◆ 子どもたちが、今いる場所で「安心」して遊べる（学べる）ようになった。
- ◆ 子どもたちへの取り組ませ方が変わったので子どもたちの学びに変化が出ていることがわかる。「どこまでできる？」が見通せるようになり、判断ができるようになった。

8. 保護者も一緒に（おたよりの発行）



箕面市PRキャラクター
滝ノ道ゆする

開発検討会議で、保護者が知りたいと思う内容を聞き取り、その意見を参考にして、架け橋期において小学校や就学前施設で行っている工夫を知り、家庭でもできることなどを紹介する「保護者向けおたより」を作成し配布を始めました。

幼保小がつながる
架け橋だより ~子ども達の豊かな育ちと学びをつなぐ~ No. 01

わくわくドキドキしながら小学校に入學した子ども達が、少しずつ学校生活になれ、安心して過ごせるように、学校では様々な工夫や取り組みを行っています。今年4月、架け橋期カリキュラムワーキングメンバー（就学前施設の先生がた）が、豊野小学校1年生の年度当初の様子を見学させていただきました。その様子ををご紹介します。

見てわかる～絵や写真・文字をわかりやすく表示～

「この花知ってるかな？」 「今から〇〇するよ」

それ知ってる！
裏にあったよ「おなじ」だ！

今から〇〇するんだ！
裏にもすること貼ってたよ。

電子黒板で
プリントを拡大

黒板
朝に準備する
ものを掲示

「おなじ・わかる」= 安心 ⇒ 学びに向かう意欲

友だちに伝える・つながる

「〇〇さんが発見したものの
場所はどこかな？」

発見したものを書いてみよう。
字でも、絵でもいいよ！
もう少し、みんなの意見を
聞いてみよう！

チャイムが鳴ったけれど、
もう少しみんなと発見を
しよう！
もう少し、みんなの意見を
聞いてみよう！

子どもの様子に合わせた
時間配分

子どもの声を
受け止める（ひろう）

つながりあえる
言葉かけ

小学校の先生と就学前施設の先生たちで構成する「架け橋期ワーキンググループ」では互いの教育活動を見学し、子どもの様子や教育内容や工夫、配慮を知り、一緒に子ども達の育ちと学びについて考えています。「遊び」から学ぶ幼児期から「学習」から学ぶ児童期へと少しずつ変わっていく過程には「安心」がとて大切なのです。

学校では、1年生入学当初から、子ども達が安心して過ごせるよう、丁寧な関わりと工夫をされています。保護者の皆様も、安心して子ども達を学校に送り出していくことも子ども達の安心感につながります。また、不安なことや困ったことがあるときには、子どものことをよく知る学校や園が相談の場になることを考えます。

箕面市教育委員会事務局 子ども未来創造局 保育・幼児教育センター

幼保小がつながる
架け橋だより 「架け橋期」は、小学校入学前の5歳児から小学校1年生までの2年間のこと。子どもの成長にとって、とても大切な時期です。 No. 2

1年生から始まる「生活科」ってどんな教科？

生活科の学習の基本は「体験すること」。いろいろな体験を通して、身近な人々や社会、自然などについて一体的に学ぶ教科です。具体的な活動のなかで、国語や算数、音楽、図工などの知識や技能を使い、知識と体験が結びつく実感を通して「考えたことを表したい、伝えたい」「もっと学びたい」といった気持ちを養うことができます。

幼児期の遊びやおしごとを生かしながら他教科の学習へ、
そしてその先の学習につながっていきます。

例：1年生 生活科「あきとともだち」

大きなどんぶり
みつけた！

何組集められるかな

この実はなんだろう
きれいな色だね

春の話をすれば
季節の違いに
気付けるかな

どんぶり拾ったことある？
どこにあるか、知っている？

発表の場を作って、
友だちと実付きを
共有しよう

体験をとおして自ら「気付き」や経験を生かして工夫すること、またそれを言葉、絵、動作などで表現することを取り返しながら、学びを確かなものにしていきます。

例：幼稚園・保育園・こども園「秋のさんぽ」

見て！この葉っぱは
私の顔より大きい
よ！

こんなにたくさん集めたよ。
あー虫が出たー

どんなことを楽しんでいるかな

みて、みて、
わあ、本当だね。

園でどんなものを用意すれば
もっと夢中になれるかな

いろいろな道標をとおして興味・関心をもち、夢中になって楽しみ「もっと知りたいたい」「どうすればもっとおもしろくなるかな」と考え、試し、主とし、間違えをもち、子ども自身が学びを発見させていきます。（学びの芽生え）

ご家庭でも・・・生涯の学びへ

子どもが興味をもったことに気付かせ、
その発信に丁寧に応えることで、子どもの
興味・関心や学びを深めることができます。

なんている前かな。
一緒に調べてみようかな。

おもしろそうだ。
何をみつけたの？

箕面市教育委員会事務局 子ども未来創造局 保育・幼児教育センター

幼保小がつながる
架け橋だより 「架け橋期」は、小学校入学前の5歳児から小学校1年生までの2年間のこと。子どもの成長にとって、とても大切な時期です。 No. 3

～幼児期の遊びや経験が小学校以降の学びにつながっています～「言葉」

遊びや生活をしていて、相手に関心をもちて話を聞き、分かるようになってたり、自分の思いを表現したり、相手に分かるように話したりするなど、相手に気持ちや伝えたい経験や、言葉を通して心を通わせる経験を積み重ね、伝え合う喜びを感じるようになっていきます。

幼児期では・・・

遊びをとおして、試したり考えたりしながら、友だちと対話し、さらに考えます。その中で、自分と異なる考えがあることに気づいたり、考えが深まったりします。

水溜すの、
こっから
にしない？

待って！
まだ帰って来よう！

水もって来た！
流すよー！

トンネルに
おだん！
おだん！

同じ目的に向かって
友だちにわかるように
伝え、協力しながら
ひとつのことを
やり遂げようとしてます。

幼児期の育ちがつながっています

小学生になると・・・

相談をするという体験を重ねることで、自分の意見を伝えたり、人の意見を聞いたりすることを学び、体験の積み重ねから折り合いをつけて意見をまとめることができるようになっていきます。

どうしようかな...

わかった！
きつと口口なん
じゃない？

わたしは〇〇だと
思うんだけど...

△△さんは、
どう思う？

ご家庭では・・・子どもは気持ちや十分に受け止めてもらうことで、自分なりに伝えようとしたり、言葉で伝えようとすることを楽しむようになっていきます。自分で話しながら少しずつ考えをまとめているので、さき進んで話をする姿を促すことなく、傾聴が聴きながしてあげましょう。

箕面市教育委員会事務局 子ども未来創造局 保育・幼児教育センター



9. 持続可能な取組にするための工夫

■意識して大切にすること

①子どもが「安心」できているか

→ 遊びや学びに向かう姿勢は、幼児教育の場でも、学校教育の場でも、「安心」できる環境の基で発揮されること。

②検証軸は「子どもの姿」

→ 取組が子どもの姿に返っているかどうかを常に意識して取組を行うこと。

③自身の保育・教育活動を見つめ直す

→ それぞれの保育や、幼児教育、学校教育において行っていることのねらいや意義を説明できるようにすること。

■持続可能な取組にするための工夫

●現実的な到達可能点、方向性の提示

→ 学校、就学前保育・教育施設と対話を重ねながら現実的な到達目標を示し、着実にすすめていくこと。

●教育委員会にも「架け橋」を

→ 学校、就学前保育・教育施設だけではなく、教育委員会内の学校担当部局、就学前担当部局がともに事業を進めること。

ご清聴ありがとうございました。



箕面市教育委員会事務局 子ども未来創造局 保育・幼児教育センター